



#編集後記 ところに歌を (^o^)

アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

http://www.avenir-sr.jp

E-Mail avenir4you@gmail.com

早いもので街は徐々にクリスマスモード。今年は旅行も行かず、遊びも（あまり）行かず。年に数回は行っていたお笑いライブも今年は無し。コンサートも1月に三枝成彰さんのニューイヤーコンサートに行っただけ。すっかり外出が減り、人に会う機会も減ってしまい、大人数での同窓会もない一年でした。



この11月で終了するNHKの朝ドラ「エール」の主人公の何とも優しい福島なまりは、福島県二本松市に住む学生時代の友人のことを思い出させました。「エール」は、「六甲おろし」や「栄冠は君に輝く」等の応援歌や、戦時中には「露営の歌」や「若鷲の歌」等の軍歌、そして1964年東京オリンピック開会式の入場行進曲「オリンピック・マーチ」を作曲した古関裕而氏をモデルとしたドラマです。

僕も録画で見えていましたが、「音楽の力」・「歌の力」を改めて感じさせるドラマでした。

SNSには、「〇〇歌ってみた」等たくさん投稿があるようですが、そんな音楽の力を感じる人が今、増えているのかもしれませんが。

歌ってくなんしょ
※福島弁
(歌ってくれ)



今年はベートーベン生誕250年。

例年であればベートーベンの第九のシーズンです。毎年恒例となっている大阪城ホールで開催される「1万人の第九」は、合唱団1,000人、観客1,000人の計2,000人に縮小されて開催される予定です。合唱の練習はリモート練習のみとのことですが、それでも開催することに意味があるように思います。

ドイツのメルケル首相はロックダウンの最中いち早く5月初旬の演説で、「**芸術支援を優先順位リストの最上位に置いている**」と強調しました。また、グリュッター文化相も「**アーティストは今、生命維持に必要な不可欠な存在**」と首相に先駆けて断言しました。

さすが、「楽聖」ベートーベンの祖国。さすが、若き日のビートルズを育んだ国です。

日本では、文化は衣食が足りてから、芸術は経済の後、と考える人が多いように感じます。

でも**文化や芸術は人間のゆとりの象徴**。

ゆとりのない社会は、ギスギスして住みづらい世の中になってしまうでしょう。

余裕がないから、自分を追い詰めたり、他人を攻撃したりするのではないのでしょうか。

将来のためには、(矛盾しているようですが) ちょっぴり無理してでも余裕を作ることが大切だと思います。



なじょんかする!
※福島弁
(どうにかする)

新型コロナウイルスの感染拡大は、企業の採用活動にも大きな影響を与えています。

文部科学、厚生労働両省は17日、来春卒業予定の大学生の10月1日時点の就職内定率が69.8%と発表しました。この時期に**70%を下回るのは5年ぶり**とのこと。

多くの企業が当面の経営に四苦八苦している状況の中です。この数字は仕方がないことかもしれませんが、**今まで採用が難しかった中小企業にとってはチャンス到来**という見方もできます。

会社の将来を見据えた中長期的な人材戦略において、あるべき採用を考えてはいかがでしょうか。



時に、歌には「喜怒哀楽」の言葉を越えたものがあります。

司馬遼太郎の小説「項羽と劉邦」の中に、散々に戦に負け続け、近臣の夏侯嬰ひとり率いて、闇夜の黄河を小舟で逃げる章があります。わかりきった不安ばかりを口にする夏侯嬰に対し、劉邦が言います。

「**こういうときにはな・・・、唄だ**」「**・・・嬰よ、うたえ**」

闇夜に舟を漕ぎながら、風にむかって「漁夫の唄」を唄う夏侯嬰。

後に、劉邦は「霸王」と呼ばれていた項羽を大逆転で打ち破り、巨大王朝「漢」を築くことになります。

んだんだ!
※福島弁
(そうだそうだ)



ベートーベンの交響曲第9番 第4楽章の合唱は「歓喜の歌」。

閉塞感の漂う、こういう時こそ、歓喜の歌を聴きたいと思います。(^^)/

今年は1回も
カラオケ行かん
かったっちゃが
(※宮崎弁)

